

EdTechを活用した 「新しい教育のカタチ」 ～EdTechイノベーションがもたらすもの～

Masahiro Sato

Apr 26 , 2019

EdTechを活用した「新しい教育のカタチ」(提案)

通信教育課程（通信制高校）のアップデートが 全日・通学制のイノベーションにつながる

■現在の通信制の位置付け（1948年、70年前に制定）



The screenshot shows the official website of the Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology of Japan. The header includes the ministry's logo and name in both Japanese and English. Navigation tabs are visible for various categories: 会見・報道・お知らせ, 政策・審議会, 白書・統計・出版物, 申請・手続き, 文部科学省の紹介, 教育, 科学技術・学術, and スポーツ. A search bar is present with the text 'サイト内検索'. A breadcrumb trail at the bottom of the page reads: トップ > 教育 > 小・中・高校教育に関すること > 高等学校教育改革の推進 > 定時制・通信制課程について.

●定時制・通信制課程について

制度の概要

70年前の「通信」の概念
をEdTechでアップデート

- 高等学校の定時制・通信制課程は、学校教育法制定時（昭和23年）から設けられている制度で、創設の趣旨としては、
- ・定時制の課程：中学校を卒業して勤務に従事するなど様々な理由で全日制の高校に進めない青少年に対して高校教育を受ける機会を与える。
 - ・通信制の課程：全日制・定時制の高校に通学することができない青少年に対して、通信の方法により高校教育を受ける機会を与える。

通信制の課程：
全日制・定時制の高校に通学することができない青少年に対して、通信の方法により高校教育を受ける機会を与える。

EdTechを活用した「新しい教育のカタチ」(提案)

EdTech (デジタルテクノロジー) により通信制がアップデートされるとどんなイノベーションが起こるか

■ 【校務・管理】

- ◇ 学習管理システム (LMS※) やスタディログを活用した個別学習計画の策定・管理
 - ・ 不登校や発達障害のみならず、ギフテッドなどの特殊な才能をもった学習者にも対応
 - ・ (言葉は悪いが) 「落ちこぼれ」から「吹きこぼれ」までLMSやスタディログを活用し、**個別学習計画で教育の質を管理、担保**
- ◇ 教員の遠隔地からの指導または支援
 - ・ 産休・介護等での休職中の**教員の働き方改革**

※LMS(Learning Management System)

■ 【教科学習】

- ◇ AIを活用した個別最適化学習
 - ・ 特に数学、英語に関しては効果がでてきている
- ◇ 学習指導要領に沿ったオンライン動画教材の活用
 - ・ MOOCsの仕組みを取り入れた動画コンテンツの充実
- ◇ プログラミング・英語4技能化対策
 - ・ 教員に対応できないスキルに対応可能なコンテンツやツールの積極的活用

EdTechを活用した「新しい教育のカタチ」(提案)

EdTech (デジタルテクノロジー) により通信制がアップデートされ、全日制が変革したイメージ (案)

高等学校

人生100年時代に向けた通信制大学の活用

現状

今後

新学習指導要領

AM PM

通学
教科学習中心 / 社会性・情操教育・コミュニケーション・STEAMなどのPBL

通信制

不登校

塾・フリースクールなどの多様な民間教育

ホームスクーリング

通信制
中学校検討

個別学習計画 (LMSやスタディログを活用し教育の質の担保を実施)

AM

通学
＜対面の有用性活用＞
(社会性・情操教育・コミュニケーション・STEAMなどのPBL中心)

PM

EdTechを活用した個別学習
＜テクノロジーを活用した個別最適化の有用性活用＞

通学
(学校にて教師とともに教科学習)
※1

EdTech

※2 塾・フリースクールなどの多様な民間教育活用

※2 ホームスクーリング

※2 大学などへの聴講

アップデートされた通信制 (EdTechを活用した個別学習)

新学習指導要領

※1・2
アクティブラーナー制度などにより、場の有用性を活用しなくても学びを管理できる学習者のみ、※2を活用できる等の検討必要

オンライン
カウンセラー
などのサポート
センター

EdTechを活用した「新しい教育のカタチ」(提案)

■【課題・Q&A】

◇通信制で教育の質の担保が可能か

- ・70年前の通信では難しかったが、現代のテクノロジーの活用（スタディログによる個別学習計画、オンラインカウンセラー等）で可能と考える（遠隔医療やオンラインバンキングと同様）

◇オンライン学習は自己管理ができないのでは

- ・アクティブラーナー（自己調整学習可）などの認定を受けた学習者が選択できるなどの工夫が必要

◇教員が不要になるのでは

- ・デジタルにはできないモチベーション向上や気付きの提供等、教員の活躍の場は更に広がる

◇新学習指導要領はどうなるのか

- ・基本的な方向性は変わらないが、個別最適化された学びの実現に向け、EdTechやスタディログの活用、異年齢、異学年集団での協働学習などを加える必要がある
- ・また、教育の質の担保を、時間数から単位制へ変更するなどが想定される

◇高等学校だけなのか

- ・通信制中学の開設検討や人生100年時代にあった通信制大学の活性化に繋げる必要がある

新通信制の課程：

全日制・定時制の高校に通学することに加え、自己調整学習可とされた青少年に対して、通信及びその他の方法により高校教育を受ける機会を与える。

ご清聴ありがとうございました。



masahiro.sato.1650



@satomasa1224



satomasahiro@dhw.ac.jp